

FX50

1972年 / 市販車

50cc クラスのピュアスポーツモデル。先代モデルの FS50 のプレスバックボーンフレームから、本格的なダブルクレードルフレームとすることで大幅に剛性がアップし、「トルクインダクション」を採用した空冷単気筒 50cc エンジンは「別格」と言われる性能を発揮した。

スリムかつ大容量 (8.0ℓ) の直線的で長い燃料タンクとレーサー風シート、軽快で水平基調を強調するリヤフェンダーが特徴のカフェレーサースタイルは、当時の高校生のファーストヤマハバイクとして憧れの存在だった。装備面でも、上位モデルを思わせる 2 連メーターやメインスイッチ、ステアリングとシートのロックが共通の鍵で扱える「ワンキー・スリーロック」などを採用、サイドカバーのチェッカーフラッグはレースイメージを演出している。

同時に発売されたオフロードモデル MR50 と共に、本格的ゼロハン (50cc) スポーツとして若者から多くの支持を集めた。

1970 - FS50



COMMUNICATION
P L A Z A